

2024年10月30日

続・私の独り旅日記2024年第4回目

## 2024年9月30日～10月4日 「北海道独り旅」です。

JRも他の値上がりには便乗？して少し高くなったのですが、年金暮らしの高齢者のために？特別に「えきねっと」というシステムで切符を購入すると以前の価格で良いという、粋な計らいがありました。

ところがこの「えきねっと」で切符購入が結構難しくて僅か1000円安いただけなのですが、四苦八苦しなながら「えきねっと」システムにチャレンジしました。北海道5日間、新幹線、在来線乗り放題26620の旅です。

### 1. 第1日（9月30日）（二宮→東京→新函館北斗→札幌→旭川）

今回の旅は40年ほど前に仕事で行った以外、行ったことがない稚内や利尻島、礼文島へ行きたくなって計画して、実行しました。

何とか、二宮から1日で稚内に行く方法がないかと調べましたが、飛行機で行けば可能ですが自動車では無理で、それなら旭川まで行くとして、いつもより少しゆっくり家を出て、東京発8時18分の新幹線に乗ることにしました。東京駅では新幹線の待合室でパンとコーヒーを飲みながら、これも何回か前から恒例になっているマン・ウォッチング（人間観察）をします。これは以前にも書きましたが、意外に面白く、見るとはなしに見て、聞くとはなしに聞きます。少し離れていると全く聞こえませんが、ビジネスマンや高齢のご夫婦、おばちゃんたちのグループなど本当に面白いです。

若いカップルは少し離れていて会話は全く聞こえませんが、手をつなぎながらじっと目を見つめ合って、これから転勤か？長期の出張か？で遠距離恋愛になるのか？女性が何か涙ぐんでいるようでしたが、近くのおばちゃん達はいつも賑やか、そのものでした。

それにもまして面白いのは夫婦の会話です。ある夫婦は亭主閑白で、またある夫婦はかかあ天下？さて我が家はどうだったのか？

発車5分前に新幹線に乗りましたが、これも何回か前から学習して車両の1地番後ろの席を予約しています。これは座席を倒す時に、後ろの人を気にすることなく座席を倒せます。そしてまたまたコーヒーを飲みながら10グループ、15人程に安否確認のためのlineメールを送りながら、疲れると本を取り出して読みます。

最近読んでいる本は、実は前の会社で2年程上司だった方から、「千利休と秀吉」の小説を15、6冊送られてきて、読み始めているのですが、これが本当に面白くて、読んでいる

とあっという間に仙台を過ぎて盛岡に近くなっていました。そして少し眠くなって居眠りをしていると青函トンネルを抜けて新函館北斗駅についてしまいました。

東京→新函館北斗までわずか4時間弱、そこは秋を通り越して初冬のような季節になっていました。今回は服装も冬支度で来ましたから大正解でした。

旭川では、ここもいつものビジネスホテルに泊まって夕食は軽く旭川ラーメンを食べて明日からの旅に備えて早めに寝ました。

## 2. 第2日 (旭川→稚内→利尻島)

旭川発9時の特急(宗谷)に乗って稚内に着いたのは12時55分でした。

最北の駅、稚内迄約4時間。やはり北海道は広い、稚内駅は最北の駅で札幌から306キロ、東京から1547キロ、九州の指宿から3057キロ…といろいろなことが駅に書いてありました。さて、稚内から利尻島に行くフェリー乗り場とか時間を調べていると、少し時間があることが分かり、町の中を少し散策しました。日本の最北端の町であるが大磯よりはるかに大きな町でした。

稚内から利尻島へはもちろんフェリーで行きました。最近フェリーに乗ったことがなかったのですが、稚内から利尻島まで(勿論2等客室でしたが)所要時間1時間40分、3590円。高いのか、安いのか?分かりませんが、季節外れのせいか割と空いていました。利尻島に着くとホテルの送迎バスが待っていてくれて、ホテルへ。このホテルが予約した時は判らなかつたが、なんと利尻島の町営ホテル、従業員は当然です。雇用促進できていいなと思った次第です。

夕方近かったのですが、ホテルから歩いて行ける名所を聞いてみると、15分ほどの所に夕日丘展望台があり、今から行くと夕日が沈むところが見られると言う。急いで行って見たが生憎雲が多くて、きれいな夕日は見られませんでした。

夕食はやはり海が近いせいか、魚料理がうまかったです。また、ここは天然の温泉で町営ホテルにしてはとってもいい温泉でした。

## 3. 第3日 (10月2日) (利尻島→稚内→旭川)

今日は本当は利尻島から礼文島→稚内で泊りたかったのですが、稚内のホテルも旅館もすべて満室で予約出来ず、「季節外れなのに何で?」と思って確認すると、この時期は旅行者はいないが、冬に備えて道路工事や建物や街路樹の整備で建築関係の宿泊者で満員とのこと。まあ、そんなことで地元、稚内が潤うならいいじゃないかと、変な納得の仕方ですが利尻、礼文の観光は次の機会として、旭川に戻ることにしました。

しかしそれではあまりに勿体ないので、利尻島から稚内に戻りながら稚内の地図を見てい

ると、最北の駅から更に最北の所があると分かり、ノシャップ岬と宗谷岬に行ってみました。こんな所が独り旅の良いところです。ノシャップ岬からは晴れていれば樺太が見えるとガイドブックにありましたがあいにくの曇り空で見えませんでした。

次に稚内駅からバスで1時間ほどで宗谷岬に行きました。宗谷岬で記念写真を撮り、その横には1809年に樺太（サハリン）が島であることを間宮林蔵が発見したという記念碑もありました。宗谷岬はもう真冬で風も強く、長袖のシャツにカシミアのセーター、厚手のベストでも寒くて、ダウンのジャケットを持ってくれば良かったと。近くで「暖かい宗谷ラーメンはいかが？」という看板を見て早々にその店に入りました。内地ではこの日30度の所もあったとか。大磯の知人は暑くてアイスクリームを食べたとか。なんて日本は広いのだろうと、感心しました。

稚内観光協会で、「日本本土4極 最北端 出発・訪問・到達 証明書」を稚内市長印入りで令和6年10月2日付けで頂きました。こんなことも稚内市の粋な計らいか！

稚内で宿泊が出来なかったので、稚内発17時44分発の特急「宗谷」で再び旭川に戻りました。

#### 4. 第4日（10月3日）（旭川市内観光）

旭川は何度も来て、あちこち見学したのでどこか違う所に行きたくなり、観光協会に行ってみると、少し離れているがバスで行ける、上野ファームと井上靖文学館を紹介されて、早速上野ファーム（植物園）に行きました。

ここは1909年の開業でもう100年以上の歴史があり、もう晩秋、初冬の季節になっていて、花はあまり期待持てない？と思いきや、広大な敷地の中に100種類以上の秋の花が沢山咲いていました。丁度ハロウィンの時期でもあり、あちこちにハロウィンのデコレーションがしてあり見事でした。

午前中そこで過ごし、昼頃のバスで旭川に戻ろうとバス停でバスを待っていると、顔は日本人風だが言葉が違うな？と感じて良く聞いていると韓国語でした。同じバスに乗って、どうやら彼らは旭川の酒造所に行くらしい。

運転手にスマホを見せながら、一生懸命にその酒造所はどこで降りるか？を聞いていたが、高齢の運転手は韓国語はおろか、英語も全く話せない。

韓国語と日本語で全くかみ合わずに、運転手は「その酒造所の近くでバスを止める」と日本語で説明し、韓国人は首をかしげている。

見かねて、私が例の中学生で習った英語で、彼等に「英語は話せるか？」と拙い英語で聞いてみると、彼らの一人が身振りを交えて「a little→少し」というのが分かったので私も「me too→私も」と笑いながら応じた。

これは小さな親切？ それとも余計なおせっかい？ どちらですか？

そして運転手が次の停留所が、その日本酒醸造所近くというので、私が「next bus stop→次の停留所で降りる。」と教えると彼らは日本語で「ありがとう」と。そうか「ありがとう、おはよう、こんにちは、さよなら」位は分のかるのか、と。

旭川駅で降りる時にバスの運転手が「有難う御座いました。助かりました」というので、私は「中学校で習った単語を並べただけですよ」と答えた。そう言えば私は、自分より英語が出来そうな人がいると、絶対英語を話さないことにしています。

午後から、また反対方向に行くバスで「井上靖文学館」に行ってみました。そこは晩秋の枯葉が舞う瀟洒な建物の文学館でした。井上靖氏は有名な小説家ですが、私は殆ど小説を読んでいません。高校時代に読んだ山岳小説「氷壁」と、つい1か月前に知人から大量に送られた「千利休と秀吉」に関する小説の中にあった井上靖氏の「本覚坊遺文」ということのほか面白い本のたった2冊でしたが、そんな訳でこの文学館を訪ねたのですが、意外や意外実に素晴らしい文学館で、ちょうど学芸員が、建物と井上作品について説明してくれるのを興味深く伺いました。

## **5. 第5日 (10月4日) (旭川→札幌→新函館北斗→東京→大磯)**

こうして今回も、予定外、予定外の旅でしたが、あっという間の4泊5日の旅でした。帰りも特急、新幹線、在来線で9時間ほどの旅ですが、飽きることなく、人間観察、line、読書、居眠り…で無事に大磯の我が家に着きました。

今年はまだ1度くらいどこかに行けるかな? (by テツ&ゴン)